



研究だより

佐賀県立唐津特別支援学校
2024(令和6)年10月発行
研究部 第2号

各学部、寄宿舎の1学期の取り組みと今後の取り組みを紹介します。

小学部

1. 1学期の取り組み

(1) 共通理解した内容

○生活単元学習の概要の説明や「できる状況づくり」を視点とした昨年度の実践例の紹介、グループでの話し合いを通して、子どもが主体的に活動する姿を目指した授業づくりについて、じっくり考えることができた。

(2) 授業実践において取り組んだ内容(6月単元)

○「各教科等を合わせた指導」の中で何を学ぶのかを明確にするため、単元のねがいに含まれる各教科等を表記し、学習指導要領各教科等編を使って、各教科等の内容を確認した。

○単元で取り組んだ「できる状況づくり」と各教科等の内容をテーマに5学級が実践発表をし、グループ協議を行い、「各教科等を合わせた指導」について理解が深まった。

2. 今後に向けて

計画立案時に、単元に含まれる各教科等の目標や内容について学級で話題にし、子ども達のねがいやよりよい支援(できる状況づくり)につなげるために、一つのツールとして指導略案の様式を改善したり、学部研でじっくり話し合う機会を設けたりしていく。

中学部

1. 1学期の取り組み

○第2回学部研究会

- ・「各教科等を合わせた指導」について「本校の教育」を確認しながら、学部全体で共通理解

○第3回学部研究会、第4回学部研究会

- ・7月の生活単元学習について「授業計画シート・個人のねがいシート」を活用しながら、内容の検討や単元のねがいについて学部内で共有(発表する場を設定)した。

○第5回学部研究会

- ・グループごとに7月単元の振り返り

○第6回学部研究会

- ・知的障害学級と肢体不自由学級の取り組みについて発表を行った。共通の様式のスライドを用いて各教科等の内容の視点を提示しながら説明した。
- ・単元に含まれる各教科等や「できる状況づくり」について各グループで話し合った意見を学部全体で共有した。



←授業実践発表の様子



←全体協議の様子(グループでの話し合い)

2. 今後に向けて

- ・学習指導要領や『本校の教育』を踏まえた「各教科等を合わせた指導」について理解を深める。
- ・「できる状況づくり」について、共通理解・実践を図る。
- ・12月には生活単元学習の公開全体授業研究会を実施する。個人の各教科等の内容を整理し、子どものねがいを具体的にすることで良い手立てにつなげていく。

高等部

1. 1学期の取り組み

7月の生活単元学習において「子どもが主体的に活動する姿を目指した授業づくり」を研究主題として、各学年で授業づくりを行った。

高等部の研究の柱

- ・単元のテーマを大切にしながら「できる状況づくり」の充実を図る。
- ・個人のねがいに含まれる各教科等の目標及び内容の視点をもつ。

～取り組みの成果～

各学年で7月に行った生活単元学習について発表を行った。生徒がより主体的に取り組むための支援について共通理解を図ることができた。アンケートの中には、「どの生徒も達成感を味わえるような教材作りをしたい」や「子どもの様子と願い、その手立てのつながりをよく考えないといけない」などの意見があった。

2. 今後に向けて

12月にも生活単元学習の実践授業を行う。7月の良かった点や反省点を活かしながら、授業づくりに取り組んでいきたい。

寄宿舎

1. 1学期の取り組み

○寄宿舎職員が方向性を同じくして子どもの支援ができるよう、4・5月の研修会で「ねがい」や「見取り」について共通理解を図り、校長講話で本校が目指す子どもの姿を確認した。

○高等部主事の樋口先生の講話やグループワークを行い、「ゆとりある生活づくり」を振り返り、具体的な改善策や寄宿舎の在り方について考えた。

○事例研「あーだこーだ」を今年度は棟別ではなく、全員で行った。また、初めての試みで担任や養護教諭を招き、より多角的な視点で話し合うことができた。

○「担当同士の話し合いの週」を毎月設定し、研修会の枠の中にも、話し合いの時間をとり職員間の連携に努めた。

2. 今後に向けて

☆子ども・職員ともに見通しやゆとりの気持ちが大切であり、そのためにも職員間の更なる連携を図っていく。

☆子どもから「〇〇してみたい!」と発信し実現できることも増えてきた。そんな経験を重ねていけるよう、今後子どもたちに寄り添い思いを汲み取る力をつけていきたい。